

**平成29年度実践的な手術手技向上研修事業に
関する評価報告**

産業医科大学における取り組みと現状

産業医科大学 外科手術手技専門委員会

事業遂行のための経過

「平成29年度実践的な手術手技向上研修事業選定通知」
平成29年6月7日付



外科系診療科に参加有無の確認
研修事業遂行のための準備
(平成29年7月-10月)



事業計画・立案 平成29年11月-12月

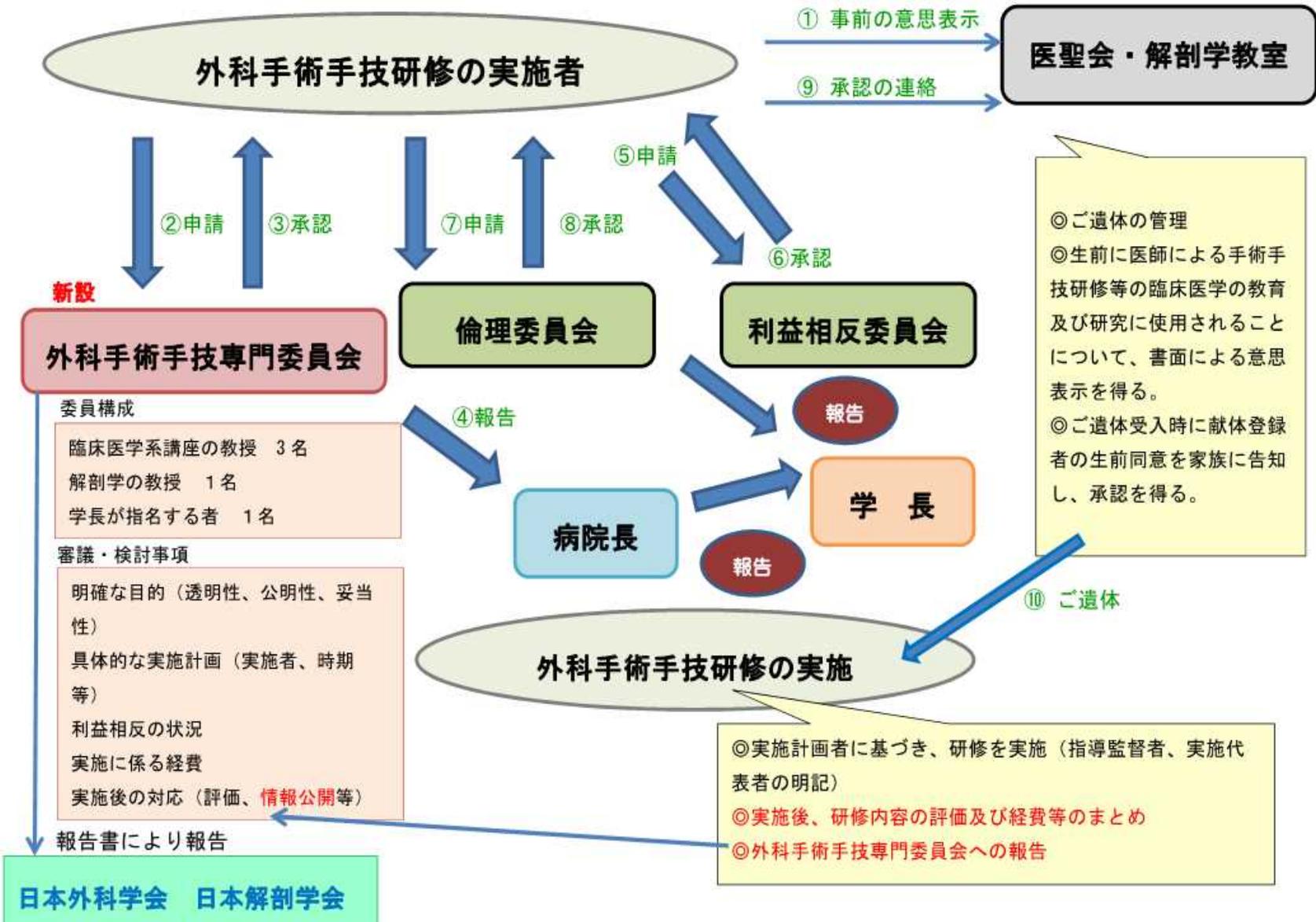


参加各科から大学倫理委員会／利益相反委員会に書類提出
平成29年12月8日承認



予算案作成と日程調整

外科手術手技研修等の実施に係る学内の体制、要件等フロー



H29年度 CST実施実績(見込み)

講座	テーマ	総参加人数 (学外)	実施日
整形外科	関節内視鏡手術・脊椎外科の手術	36 (19)	H30.1.20/21
産婦人科	骨盤内悪性腫瘍に対する手術 (開腹・内視鏡)	17 (6)	H30.1.27
第2外科	肺がんに対する手術 (開胸・内視鏡)	13 (1)	H30.1.28
第1外科	食道癌に対する手術 (開腹/開胸・内視鏡)	26 (14)	H30.2.10
救急医学	救急医学に必要な外科手術	54 (44)	H30.2.17/18
泌尿器科	後腹膜臓器に対する手術手技 (開腹・内視鏡)	18 (9) (見込み)	H30.3.4
脳神経外科	頭蓋底腫瘍に対する外科手術	35 (12) (見込み)	H30.3.24/25

CST実施件数	5 (7)	使用ご遺体数	18 (30)
---------	-------	--------	---------

(産業医科大学)

I 事業運用における課題

1. 予算配分と日程調整に苦労した。 → 早めに参加各科と十分な調整を行った。
2. 各科から献体ご遺体に対する要求があり、ご遺体の数が足りない可能性があった。 → あらかじめ参加各科から必要献体数を把握しておき、解剖学教室にお願いした。
3. 日程調整: 系統解剖実習が12月末まであり、すべての日程を1-3月で行わなければならない。センター試験、大学入試期間中はトレーニングは行えない。 → サージカルトレーニングセンター設立の計画を立てているが、実現には学内の状況はまだ困難。
4. 解剖学教室スタッフの負担増。 → 各科が解剖学スタッフの仕事を手伝い、少しでも負担が減るようにしたがまだ十分ではない。

II サージカルトレーニングで得られた効果

1. 困難な手術アプローチの外科解剖の理解に非常に有用であった。
2. Thiel 法により、実際の手術と同じような感覚で手術トレーニングが行えた。(筋肉、頭蓋骨)
3. トレーニングしたことで実際の手術を行うことができた。
4. 救急医学のトレーニングで学んだことを ER で行い救命できた。
5. 若手の手術手技向上教育には本トレーニングは必須である。

III 今後の課題

1. 予算配分をどうするか。超過分の調整。
2. 日程調整 — 過密スケジュールと献体数の確保。
3. 手術手技向上研修事業をおこなうための場所の確保。
4. 受講料はどのくらいが妥当か。誰が管理するか。
5. 解剖学教室スタッフの負担軽減をどうするか。